

母の日

平成29年5月第2週放送

毎年五月第二日曜日は「母の日」です。その始まりは諸説^{しよせつ}あるようですが、アメリカでは一九一四年に始まり、日本では昭和二十四年頃から、アメリカにならって行われるようになったようです。母の日というと、カーネーションの花を贈ることが定番となっていますが、アメリカでは白、日本では赤、オーストラリアでは季節が秋なので菊の花と、国によって違いがあるようです。

母の日は「母親に感謝をする日」といわれます。子供の頃は、赤いカーネーションを母親に贈らないといけないような感覚を持っていた人も多いかもしれませんが、常日頃から母親に感謝の気持ちを伝えていけば、特別な日を必要とはしないのかもしれないかもしれません。

仏教を開かれたお釈迦さまは、生後七日目にして母親を亡くし、母の妹である叔母に育てられました。また、福井県の大本山永平寺^{えいへいじ}を開かれた道元^{どうげん}禅師も、八歳の時に母親を亡くしています。道元禅師は、母の遺言により僧侶としての道を歩まれる決心をしたとも伝えられています。

私たちは、人として産まれたからには必ず母親が存在します。幼少の頃に体験した母親の喪失^{そうしつ}は、人の生き方に大きな影響を与えることでしょう。そう思うと、お釈迦さまや道元禅師の母の死があったからこそ、仏教が日本に伝わり、今の曹洞宗があると言えるのかも知れません。

実の母の愛情を受けたことのないお釈迦さまも『慈^{いつく}しみ』という教えの中で、
「あたかも、母がひとり子^こを命^かを賭けて護^{まも}るように、
そのように一切^{いっさい}の生きとし生けるものに対しても、
無量^{むりょう}の慈^{いつく}しみのこころ^おを起こすべし」

とお示しになっています。

アメリカで始まったとされる「母の日」ですが、それは、亡き母親^{しの}を偲んで白いカーネーションを贈ったことから始まったそうです。

今生きて生かされている自分が存在するのは、母親のおかげ、両親のおかげと思い、慈^{いつく}しみの心^{はぐく}を育て、この日を過ごしてみたいかでしょうか。

— 終 —